

## 農的暮らしをデザインしよう ②

廃タイヤ利用のガーデンポットが並ぶ裏庭菜園



### パー・マカルチャーを取り入れる

\*パー・マカルチャーは持続可能な有機無農薬の農業を基本とし、水・土・植物などを組み合わせて地域全体を設計するところに特色がある。地域の微気候や特色を生かし、伝統文化を見直すなど、私たちの生活に取り入れようとする考え方を基にしたデザインだ。

普段の生活でもパー・マカルチャーの生活ができるはず。ちょっとだけ考えてみよう。

パー・マカルチャーガーデンとナチュラルハウスの配置を考えるときには、道具を置く物置や外での作業スペースを中間に計画する。さらにダイニングキッチンや土間空間とガーデンとのつながりや食品貯蔵庫などがガーデンの近くにあると良い。生ゴミコンポストでつくった堆肥を畑に返したり、お風呂の残り水を畑にまいたりといった再利用や循環する暮らしをしやすい環境を造ることが大切なのだ。



(上)PCCJの素朴な板看板

(下)廃材を使った手作りの洗面所

### PCCJ パー・マカルチャーセンタージャパン

PCCJはパー・マカルチャーの手法による環境に負荷の少ない生活モデルの創造と、日本の風土に適したパー・マカルチャーの研究と実践及び普及を目指し、情報の発信と普及、人材の育成と教育を行うのだ。定期的にパー・マカルチャー講座が繰り広げられている。農的暮らしに興味のある方は要チェック！

● <http://www.pccj.net>

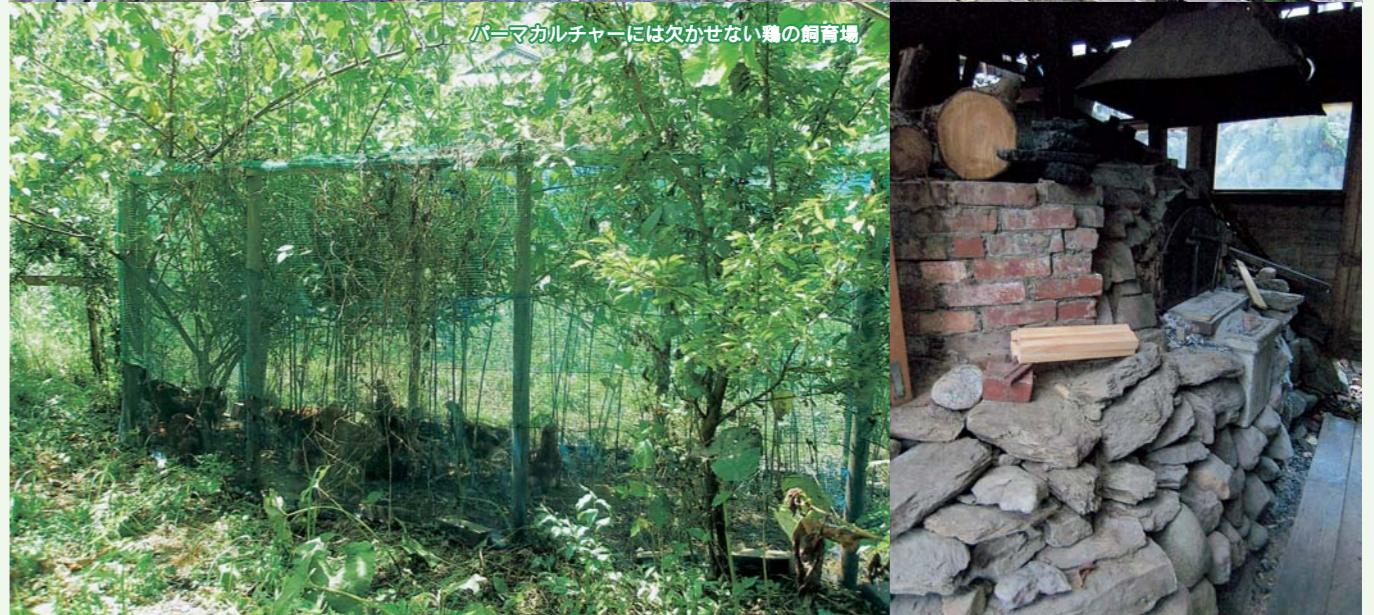
東京から約1時間、神奈川県の相模湖の近く藤野町に日本のパー・マカルチャーの草分け、PCCJがあつた。山中湖からの帰り、山道を抜け迷いつつやっとたどり着いたセンター施設は、思わず「ボロ…」と叫んでしまうほどの旧農家の一軒家なのだ。およそ70坪の敷地で自然素材や廃材を利用して、効率的なエネルギー利用を考えた建築と、野菜などの生産を行う敷地の整備を行っているそうだ。施設にはコンポストトイレや石焼釜などが設備されていて、パー・マカルチャーの研修に利用されている。

近くの遊休農地40アールを借りてパー・カルチャーの手法による実験農場を行い、不耗起の自然農法を基本とするため、農薬や化學肥料を使わない。代わりに、窒素固定する豆科の植物を植え、除虫作用や相性の良い植物を混植する共生栽培(コンパニオンプランツ)や、刈り草の積層マルチなどを利用した野菜や穀物、果樹の栽培を行っている。農作物の生産ばかりではなく、バイオジオフィルター(植物を使った浄水施設)など、水の浄化設備の実験や鶏が畑を耕すチキントラクターの実践が行われている。

※解説…パー・マカルチャーとは

パー・マネント(持続可能)・アグリカルチャ(農業)・カルチャ(文化)をかけ合わせた造語である。

1970年代にオーストラリアで生まれた持続可能な生活環境をつくるデザインシステムのことで、自給自足を目指した有機菜園や果樹園、家畜の飼育を住宅の周辺に配置した農的暮らしのスタイルが特徴である。僕たちのエコ情報季刊誌「えこすた通信」でも、パー・マカルチャーについて毎回紹介。



### えこすたとは

エコロジー、エコノミー、スタンダード、ライフスタイルなどを合わせて僕たちがつくった造語です。健康な住まいは安全な食品と変わらないと言うコンセプトのもと、エコハウスづくりのための自然建材を扱うエコショップの店名にもなっているのです。



### エコデザイナー 西條 正幸

1960年伊達市生まれ。札幌を中心にナチュラルスタイルの店舗、住宅の空間デザイナーとして活動。自然素材にこだわった新築、リフォームの設計、施工会社「ビオプラス西條デザイン」代表取締役。自然派生活提案「えこすた」店主。

「自然素材デザイナー西條正幸のブログ」もヨロシク！

え こ す た

え こ す た

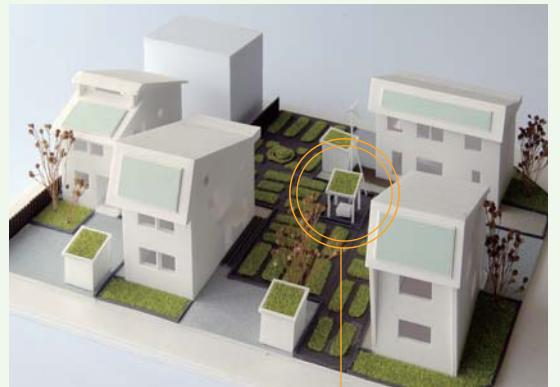
# 菜園生活プロジェクト

北海道の木の家と畑のある生活

**札幌伏古菜園プロジェクト参加者を募集開始!**



プランA



プランB

**Bio+**  
ビオプラス西條デザイン

有限会社 ビオプラス西條デザイン

本社:〒002-8081 札幌市北区百合が原4丁目8-1  
Tel.011-774-8599 Fax.011-774-8581伊達支店:〒052-0014 伊達市舟岡町50-28  
Tel.0142-22-0138 Fax.0142-22-0139

2008年4月(有)西條インテリアデザインは(有)ビオプラス西條デザインに社名を変更いたしました。Bioはドイツやオーストリアのオーガニック食品に表示されるラベリングとして身体や健康にやさしい自然派商品の総称を意味しています。僕たちが目指すビオデザインはこの精神を受け継ぎ厳選された自然素材でつくる、さまざまな形のナチュラルスタイルを提案します。



えこすた会員募集中!  
会員になるとエコ情報季刊誌  
'えこすた通信'をお届けします。

菜園生活プロジェクトは  
[www.saijo-d.com](http://www.saijo-d.com)

1

住人が家づくりに参加する

建物全体の調和を考え、畑づくりなどのルールを守りながら工芸な住環境を実現したい。建物のデザインや室内のレイアウト、仕上げ素材などは自由設計が良いだろう。

緩やかな住まいのルールは「一ボラティブ住宅的暮らしの良さを取り入れ、地球環境と住人達みんなの元気と健康を守ることがテーマだ。

菜園生活プロジェクトでは住人の意見を聞いて、家づくり、まちづくりを住人が考え、参

加できる仕組みをお手伝いしたい。

できるだけ積極的に実際の家づくりにも参加してほしい。無垢の木をたくさん使った家はオイル仕上げやワックス塗りだけでも、一般の新建材を使う住宅とは比べ物にならないほど手間がかかるのだ。壁の漆喰や珪藻土塗りは、やってみると意外と簡単で結構はある。

ほんと楽しいのだ。初心者の方へのセルフビルドのアドバイスと菜園作りのサポートもしていきたいと思う。

2

菜園生活のルールを考えてみた

まず最初に菜園づくりのルールを考えよう。敷地内に有害な化学物質を持ち込まないことと、有機・無農薬栽培で野菜をつくることが基本だと思う。さらに「コミュニティガーデン」として、菜園ゾーンを維持するために畑内に建物を建てることを禁止したり、建物で菜園ゾーンの日差しをさえぎらないようにしなければいけない。また木や花を植えるなど緑化を積極的に心がけよう。建物は地球環境に負荷のかかる材

料は使用せず、道産のローカルな自然素材を使つたナチュラルハウスを建てる。景観を優しく整える意味でも道産の木板仕上げの外観を基本とし、道路や隣地からの最低限の後退距離だけは決める。

雨水や生ごみを堆肥にして畑の土に返すなど、地球に優しく循環を感じられる暮らしを心がけるといった緩やかなルールを決めることが分かっている。特に接着剤を使わない無垢材の木だ。

日本の木材の自給率は食糧と同じで2割。しかしここ数年、北海道のカラマツは伐採のスピードが植林に追いつかず、将来の資源が心配になってしまっている。貴重な無垢の木は大切に使いたいものだ。僕たちは本物の北海道の山の木で家を建てるため、木のトレーサビリティーを確認し、家に使われているすべての木の履歴と、伐採された山の報告をする取り組みを、「NPO法人もりねつと北海道」の協力で始める準備も進んでいる。

自分の家の土台、梁、柱、下地板そして主役の床フローリングから家具や建具まで、使われている木が、どこの山から来たものなのかが分かるなんて、なんだかワクワクするでしょ。

雨水や生ごみを堆肥にして畑の土に返すなど、地球に優しく循環を感じられる暮らしを心がけるといった緩やかなルールを決めることが分かっている。特に接着剤を使わない無垢材の木だ。

日本の木材の自給率は食糧と同じで2割。しかしここ数年、北海道のカラマツは伐採のスピードが植林に追いつかず、将来の資源が心配になってしまっている。貴重な無垢の木は大切に使いたいものだ。僕たちは本物の北海道の山の木で家を建てるため、木のトレーサビリティーを確認し、家に使われているすべての木の履歴と、伐採された山の報告をする取り組みを、「NPO法人もりねつと北海道」の協力で始めている。

自分の家の土台、梁、柱、下地板そして主役の床フローリングから家具や建具まで、使われている木が、どこの山から来たものなのかが分かるなんて、なんだかワクワクするでしょ。

3

木の履歴を報告する

札幌市東区伏古で始まった菜園生活プロジェクトは、生活環境の整った約765m<sup>2</sup>(232坪)の土地を4世帯がそれぞれ区分所有し、自由設計でナチュラルハウスを建てる計画だ。

裏庭に菜園空間を設けて「コミュニティガーデン」をつくるプランでは、お隣同士が仲良くなる仕組みが、開放感のある広いオープンスペースをつくり出す。ここは子供たちの土の遊び場としても大人気間違いなし。また中央にコモン空間として井戸端広場をつくったプランでは、4世帯すべてがつながり、より仲の良い「コミュニティガーデン」を作り出す。正真正銘「井戸端会議」の復活だ。住人を含めいろいろな方の意見を聞いて、プロジェクトを進めています。伏古に限らず、札幌に限らず、菜園プロジェクトと一緒に盛り上げてくれる協業者さん、そして菜園生活をエンジョイしたい住の方々のご参加をお待ちしています。